



宮城の歴史さんぽ道 特別対談 第三弾

第三彈

政宗公が遺した宝・仙台

400年前の震災復興からの メッセージ



エフエム仙台(Date fm)
な ご み
名 護 ひと美 アナウンサー
宮城県民共済ラジオ番組
「みやぎスマイルプロジェクト」担当
仙台生まれの仙台育ち

東北大災害科学国際研究所
えび な ゆう いち
蝦名裕一准教授
人間・社会対応研究部門灾害文化研究分野
日本古文書の傍ら、古文書の保全活動に関わる
津波工学、地質学の研究者と連携して歴史災害を研究

名護　日本には世界に類を見ない文書文化が息づいていたんですね。今から40年前には慶長奥州大地震が発生したといわれていますが、それはどのような地震だったんでしようか。

の大津波が発生したことになります。
名護 その真相はどうなんでしょうか。
岡を見ると、阿武隈川の流れは今とは違つて千貫山の付近で2本に分かれています。ここから津波が河川遡上して千貫山の近くまで到達したのではないかと考えられま
す。真相のほどは定かではありませんが、岩沼の沿岸部で17世紀の津波の堆積物と

名護 津波による塩水で苦しめられています。た土地で塩をつくるとは、まさに逆転の発想ですね。

らを居城に招き、褒め称えたとされます。仙台藩の未来にとって福をなすまでの、それが政宗公のいう「重宝」だつたんですね。つまり、政宗公の手腕は様々な事業を開拓する家臣たちのリーダーとして發揮されたと考えるべきでしよう。自然の發揮異と恩恵の両方を理解しながら、豊かからず國づくりを進めた政宗公と家臣団。40年という時を経て、現代に伝えられ、

● 3月21日(水祝)
夜7時~7時55分
みやぎスマイルプロジェクト
「宮城の歴史さんぽ道」特別編
～政宗公が遺した宝・仙台～
の中で放送します。
どうぞお楽しみに。

蝦名 はい、日本の江戸時代の研究と、歴史資料の保存が専門です。この研究所では、文系と理系の災害研究を融合し、共に力を合わせて災害に立ち向かっています。こういうのが目的です。

名護 歴史資料とは古文書のことですか。

蝦名 ええ、そうです。私は日本の古文書には大いなるポテンシャルがあると考えています。日本には世界でも珍しく膨大な古文書が残されており、推定で約20億点の古文書が眠っているといわれています。また、それらは日本だけでなく、世界

時の被害の様子は、政宗公の知遇を得て仙台藩の沿岸部を調査していたスペインの探検家セバスティアン・ビスカイノの報告書や、徳川家康の家臣が記した『駿府政事録』にも記述が残されています。

名護 古い記録の中には、岩沼の千貫山に関する伝説も書き記されているそうですね。

蝦名 そうなんです。『駿府政事録』の中には、政宗公の家臣が岩沼で津波に遭遇して漂流し、千貫松という場所まで流れ着いたと書かれています。千貫松とは今の岩沼市にある千貫山のことだと考えられますが、その標高は190メートル。資料の記述通りだとすれば、2000メートル以上

運河の始まりでもあるんですよ。

蝦名 あつ、そうなんですか。孫兵衛は土木技術に長けていたんですね。

震災復興の要として、孫兵衛が取り組んだ事業に塩田開発があります。それまで仙台藩では塩を他領からの輸入に頼っていましたが、慶長奥州津波の後、沿岸部で孫兵衛たちが塩田を開発したことにより、一大産業が生まれたのです。また、製塩のための様々な道具をつくる仕事も生まれ、沿岸部の人々の暮らしが豊かになつたといわれています。現在の岩沼市沿岸部に北釜や相ノ釜、長谷釜など、「釜」の付く地名が多いのは、孫兵衛が塩をつくるための釜を設置したことに由来

名護 政宗公による震災からの復興事業を通して、現代に生きる私たちが考るべき教訓とは何でしょうか。

蝦名 政宗公の功績としては、孫兵衛を中心とする有力な人材を抜擢したこと、また仙台藩にはなかつた新たな産業や文化を率先して導入したことがあげられます。当時の政宗公の史料には「災害」と「復興」という言葉こそありませんが、仙台藩の歴史書によると、政宗公は津波として、建設に携わった伊藤三郎左衛門

毎週金曜日、宮城県民共済がエフエム仙台でお送りしているラジオ番組「みやぎスマイルプロジェクト」宮城の歴史さんぽ道。その特別対談第三弾として、今回は東北大学災害科学国際研究所の蝦名裕一准教授をゲストにお迎えし、400年前に発生した慶長奥州大地震を教訓に、豊かな国づくりを目指した伊達政宗公のリーダーシップと、それを支えた家臣たちの活躍ぶりを古文書から解き明かします。

今回も「宮城の歴史さんぽ道」特別編のオンラインアに先立ち、エフエム仙台「宮城スマイルプロジェクト」でおなじみの名護ひと美さんをインタビュアーに、対談の一部を誌上公開します。

東北大学災害科学国際研究所とは

東日本大震災の翌年の2012年に設立された東北大学災害科学国際研究所は、「文理融合」をモットーに文系と理系の災害研究を融合させて、国内外の大学や研究機関と協力しながら、自然災害科学に関する世界最先端の研究を行っています。

英語の褒美称はIRIDeS(イリディス)。所章(ロゴマーク)は「災」という文字を反転したもので、「災い転じて福となす」という諺のように、復旧・復興を促進して、災害に賢く対応できる社会に変えていこうという決意を表しています。



IRIDEs
International Research Institute
of Disaster Science

蝦名裕

准教授

名護ひと美
アナンソサー
エフエム仙台
(Date f m)

見られる砂層が確認されてい
るので、岩沼地域で過去に大きな津波があつたことは事実であります。

など、初代孫兵衛の塩田開発に端を発した産業振興は、政宗公が想い描く豊かさ国づくりに大きく貢献したといえるでしょう。

仙台の姿こそが、政宗公たちが遺した最大の宝なのではないかと思うのです。

名護 政宗公が遺した宝、それが今の仙台というわけですね。

